

## 巻頭エッセイ

### 50周年の記念に寄せて

武井俊文

(社)日本作業船協会 会長



社団法人日本作業船協会は昭和33年に設立されてから本年で50周年を迎えます。これを記念した「50周年記念特集号」を発行するにあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

まず、作業船の設計・建造・保有・利用を通じて我が国の発展に大きな貢献を果たされた会員の皆様の弛まぬご尽力に対しまして、改めて敬意を表します。また、国土交通省港湾局および関係団体のご指導・ご支援に対しまして感謝の意を表します。皆様のおかげをもちまして50周年を迎えることができましたことは、私の大きな喜びであります。

当協会は昭和33年に発足した「作業船技術研究協会」を基盤に活動を始め、昭和39年に「社団法人日本作業船協会」に改組し、今日に至っております。特に、我が国発展の基礎を築くこととなった高度経済成長期においては、臨海工業地帯の整備等に従事する新鋭作業船の研究開発に努めてまいりました。同時に、ポンプ浚渫船やグラブ浚渫船等の設計基準の作成、作業船自主検査判定要領の作成、輸出船標準契約約款の作成等を行い、作業船の建造・維持管理にかかる基礎技術の整備も実施してまいりました。また、今日的課題である流出油回収技術やごみ回収技術の研究開発、海

洋漂流・漂着ごみ対策調査や次世代作業船の調査研究など、その時々々の社会の要請に対応した調査研究開発も行ってまいりました。

今日、地球規模での気候変動や鉱物資源の高騰・枯渇あるいは食料不足、新興国台頭による国際的な枠組みの変化等に対して、我が国は適切な対応を取ることが求められております。このような中で、本年3月に海洋基本計画および国土形成計画が策定され、沿岸域から外洋まで幅広い海域における開発、利用と保全を図り、海の恩恵を享受する姿勢が改めて示されたことは、我が国の維持発展を図るうえで重要な視点の一つと考えます。

(社)日本作業船協会は、これまで培ってきた作業船技術を深化・多様化し、また多岐にわたる調査研究開発を通じて、港湾整備をはじめ、海洋環境の保全、沿岸域・海洋の開発、利用と保全の推進の一端を担い、我が国の発展に貢献して参ります。

最後に、本特集号は機関誌編集委員会に作成をお願いいたしました。忙しい中での取り纏め作業に心より感謝いたします。